

平成26年度 再評価委員会

河川名：筑後川水系西田川
事業名：総合流域防災事業
(10年以上継続)

1

位置図



2

事業目的

○ 流下能力不足による浸水被害が発生

平成7年7月洪水

浸水戸数 83戸

浸水面積 12.6ha

○ 浸水被害の軽減を図る

・ 築堤、河道拡幅、河床掘削等を実施

・ 治水安全度の向上を図る

計画流量 $45\text{m}^3/\text{s}$

計画治水安全度 1/30

3

平成11年6月 梅雨前線豪雨



浸水戸数
床下11戸
浸水面積11ha

時間最大雨量
56.5mm
24時間雨量
144.6mm

平成13年7月 梅雨前線豪雨



浸水戸数
床下1戸
浸水面積14ha

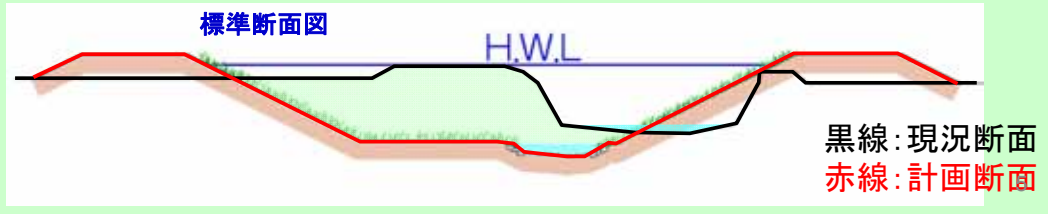
時間最大雨量
50.0mm
24時間雨量
129.0mm

4

西田川総合流域防災事業 着手年:平成16年度
事業概要 事業地:鳥栖市



- 事業概要
- ・全体事業費 約40億円
 - ・事業期間 H16~H30
 - ・改修延長 2,540m
 - ・計画流量 45m³/s
 - ・計画治水安全度 1/30
 - ・河道拡幅・築堤・掘削、樋管11基、樋門1基、橋梁11基



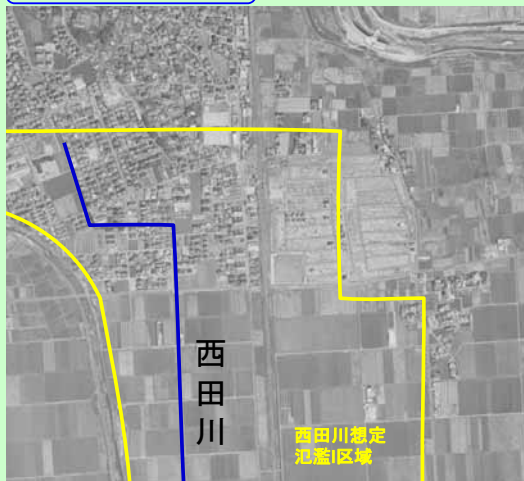
西田川 事業進捗状況



- 事業進捗状況
- ・二号橋から七号橋の築堤が概ね完了
 - ・H25年度末進捗率 24%(事業費ベース)

西田川流域の環境変化

平成14年航空写真



平成22年航空写真



- 宅地開発による流域資産の増大
 - ・平成12年ころから宅地造成に着工
 - ・現在は住宅地が拡大
- 九州新幹線鹿児島ルートが開通(平成23年)

費用対効果 B/C

総費用額C: 治水施設の整備及び施設完成後50年間の維持管理に要する総費用

総便益額B: 治水施設整備によってもたらされる施設完成後50年までの総便益額 (被害軽減額)

(総費用額C及び総便益額Bをそれぞれ現在価値化し比較する)

総費用C: 4,411百万円

総便益B: 12,141百万円

内訳	・一般資産被害(家屋、家庭用品、事業所資産、農漁家資産)	2,032百万円
	・農作物被害(水稻、畑作物)	32百万円
	・公共土木施設等災害被害(道路、橋梁、農地等)	3,442百万円
	・間接被害(事業所の営業停止被害、応急対策被害等)	213百万円
	・残存価値	137百万円

費用対効果

$$B/C = 12,141 / 4,411 = 2.8$$

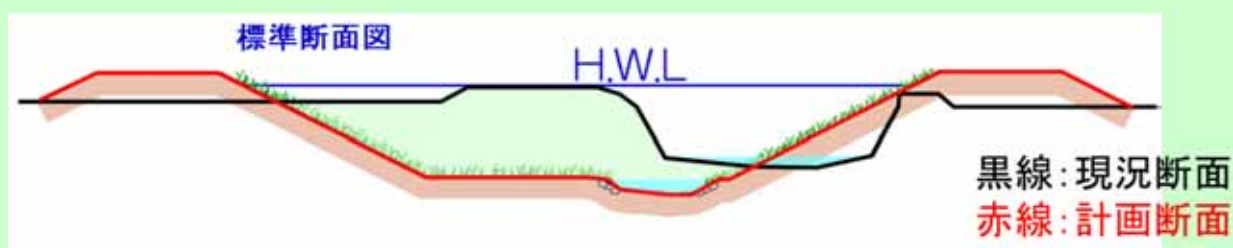
改修前後の河道状況

○中流区間(下流から約1,800m付近)七号橋より下流を望む

【改修前】



【改修後】



9

自然環境への配慮

○多自然川づくりの実施状況

- ・河川改修による河川環境への影響を軽減するため、水際部の植生の連続性を維持した整備を進めています。

【改修前】



【改修後】



四号橋上流を望む

10

今後の西田川総合流域防災 事業の継続について

☆河川改修の効果☆

①治水安全度の向上

②平成7年7月洪水による

浸水被害 83戸

浸水面積 12.6haの軽減

③地域住民の安心・安全の確保

☆今後の事業展開☆

・事業を継続し、早期完成を図りたい